

令和 4 年 3 月 3 日

足立区立栗原北小学校
校長 吉田 益巳 様

足立区立栗原北小学校 開かれた学校づくり協議会

令和 3 年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

- ・学校経営計画についてはわかりやすく、目標設定も良いと思う。コロナ禍であり教職員の皆さんとお会いする機会がなく「チーム栗北」として機能しているのかどうかがわからないことが残念。
- ・現在のようなコロナ禍において、学校へはあまり行ってないので難しいが、授業診断の時におもったのは、先生の力がやはり大きい。クラスは先生の良い悪いで差が大きくなっていると感じた。
- ・学校が目指す教育目標もクラスによってまばらになりやすいのでは。
- ・今年度もコロナ禍で学校運営が大変だったと思う。
- ・今年度も厳しい状況の下、感染対策をしっかりとりながら学校運営にご尽力頂きありがとうございました。教職員の皆様に感謝申し上げます。
- ・添付されたアンケート結果の〈自由記述〉は、保護者の様々なご意見があり、学校の様子が分かりにくい中、とても参考になった。
- ・教材や掲示物など、クラスの差がなく指導を受けられる点は、とても良いと思う。引き続き学年間で連携しクラス差を少なく指導を進めていただきたいと思います。
- ・くつ揃えなど、学校内がいつも整理されていて、とても気持ち良い。引き続き是非継続していただきたいと思います。
- ・コロナ禍によって教育活動に様々な制約が加えられる中、私が最も心配するのは「児童が学習活動を通して一人一人の個性や特色を発揮し、友達と伝えあって高め合うこと」の機会が乏しく、子供たちが学習環境の中で「孤立」していくのでは、という点。いわゆる「吹きこぼれ」「落ちこぼれの子供」を増やしてはいないだろうか、心配。
- ・昨年以上のコロナ対策の中、課題達成のための取り組みに対する成果は、教職員の皆様、子供たちの努力の賜物と思う。
- ・タブレットの一人一台の導入は、今後（コロナ収束後）の活用法にも幅が広がるように思う。
- ・制限された中での体育授業、休み時間の外遊び、学校以外での運動機会、健康や運動（スポーツ）の大切さの指導や収束後の取り組みが大切かと思う。
- ・今年度も感染対策を考えたうえでの教育活動を進めて頂いていたと思うが、体験的な学習や運動会、マラソン大会などの行事、縦割りでの活動については、来年度に向けて可能な限り、再開する方法を模索してほしい。子供たちの将来のためにも集団生活ならではの活動を多く出来るよう検討してほしい。

- ・コロナ禍という事もあり先生方は通常の時と違った手間のかかる仕事が増え、負担も大きかったと思いますが、子供たちの事を良く見てくれていると思う。お疲れ様です。有事が起これば成長もするのでこれを機により良い環境へと進んで行くと思う。
- ・「思いやりの心」「挨拶」「生活習慣」の達成度が高く、相手を思いやれる優しい子供たちが多いと思った。
- ・体力向上関係の達成度を低く自己評価されているようですが、やむを得ないことではないか。コロナ禍で例年通りの活動がままならない中で子供たちに最大限の体験をさせてくれていると感じる。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・学力習得の取り組みが、新型コロナウイルス感染予防のため、計画通り進められなかったことが心配。
- ・コロナ禍のためにゲストティーチャーなど、体験的な学習が出来ずにご苦労も多いかと思われる。地域の人間として地域の学校をこれからも支援して行こうと思う。
- ・学力はもちろん、体力低下が心配。早くみんなで遊べるようになればいいなと思う。
- ・今年度も学校の中の様子がよくわからなかった。コロナ禍でも工夫して学校生活を伝えて頂けたら、保護者・地域の理解も深まると思う。
- ・ホームページのタイムリーな更新や（他校）学校生活のブログ発信なども、学校に入れずとも様子が伝わるようです。来年度に向けて是非検討をお願いしたい。
- ・今まで経験したことのない出来事の繰り返しで厳しい現状のなか、日々大変ご苦労なさっていると。コロナへの思い、ストレスも加わりさらに保護者の方々の様々な意見や賛否があり、対応が大変かと思う。微力だが何か力になれる事があつたら、協力させていただきたいと思っている。コロナに負けず元気に子供たちのために頑張る先生たちを応援している。お体に気を付けてください。
- ・「対話のない授業」「学びあいの乏しい授業」とならないために、コロナの一刻も早い収束を祈るようなお気持ちで見守っている。コロナ禍が先生や学校に与えた負荷の大きさは計り知れない程大きいと感じる。よくぞ頑張って来られた。深く感謝します。
- ・学校、保護者、地域連携の良さが栗北小の魅力だが、その機会が減少してしまいました。送っていただく「栗北だより」から学校の様子をうかがうことしかできないのは残念だ。
- ・保護者や地域は協力的であるにもかかわらず、コロナ禍においてもあましている部分があると感じる。図書、学習、花壇、外国語などのボランティアをコロナ以前のように復活させることが出来ればと思う。それが子供たちの学力向上や生活面での成長につながると思う。
- ・これが正解という確かなエビデンスというものが無い中、この2年間試行錯誤してきたと思う。賛否両論ありますが目的は1つ、すべては子供たちのためにだと思えます。学力だけでなく健康にも配慮しながら大変お疲れさまでした。そして地域や保護者の皆様には子供たちが安心安全に生活が送れるようデジタルだけに頼らずアナログ（人の目）というものを強化していただければと思う。
- ・コロナ禍で保護者の意見も多様化していると感じた。今後も「全ては子供たちのために」を合言葉に、教職員、保護者、地域の連携が改めて必要と感じた。

3 その他

- ・ホームページを充実させてほしい。校長先生や副校長先生のメッセージが欲しい。
- ・通学路の安全点検について、都道と栗六陸橋の交差点（セブンイレブン）の信号待ちだが、歩道最前の車止めポールまで出ている児童をよく見る。（特に1，2年生。朝よりも下校時）通過する車との距離が近くとても危ない。点字ブロック手前で待つよう家庭で話していただけたらと思う。
- ・子供たちだけでなく、教職員の皆様にもコロナ禍での学校活動が円滑に行われることを祈念します。
- ・保護者のアンケートにも多く意見があったが、朝の旗振りの際、数年前と比べると挨拶をしてくる子供が少なくなったと感じる。校内での挨拶は評価されているようだが、地域の人たちにも同じように出来るよう指導いただきたい。
- ・様々な制約がある中で子供たちのために精一杯取り組んでいただき、ありがとうございます。